

1 月例会 『ハナ—奇跡の46日間—』

忘年会で選んだ2013映画10選など

明けましておめでとうございます

新年を迎え会員のみなさまには、ご健勝とご多幸をお祈りいたします。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

昨年は、この会の活動については、役員が歳を拾ってきたこともあり、少し地味だった感があります。しかし、それはそれで、着実に例会を継続しており、悪くないことでしょう。映画界では、邦画が豊作で、例年と比べ秀作がいくつもあった年でした。

映画館で時を過ごしていると、心が豊かになっている自分に気がきます。自分の好みの映画、人に薦められた映画、いずれも心の肥やしになります。今年も映画を楽しみましょう。

一方、このニュースを作成している段階で、会員数が163名と以前と比べ10名くらいの減員となることがわかり、ちょっとしたショックを受けています。

このように、この会の運営が、厳しくなっていくなど、いくつかの問題はありますが、今年も感動を与える名作の映画鑑賞の機会を、できるだけ多く作っていきたいと思いますので、昨年にも増して、ご協力くださいますようお願いいたします。

例会のお知らせ

■名称／第70回例会 『ハナ—奇跡の46日間—』

■日時／2014年1月22日(水) ①PM1:50～、
②PM4:10～、③PM6:30～

■場所／加古川総合文化センター大会議室(JR 東加古川駅から北へ徒歩10分、車は加古川バイパス加古川東ランプ北東へ600m)

■受付／入会手続きが終わっている方は、受付に同封の「例会参加券」をお渡しください。入会手続きを行っていない方は、受付で4箇月分の会費(2000円)を支払い、入会手続きを終えてから、「例会参加券」をお受取りください。

■タイトル／ハナ—奇跡の46日間—

(原題“KOREA”、英題“As One”)

■監督／ムン・ヒョンソン

■出演／ハ・ジウォン、ペ・ドゥナ、チェ・ユニョン、ハン・イェリ、イ・ジョンソク

■データ／2012年、韓国、2時間7分、ブルーレイ

■ジャンル／ヒューマンドラマ

■解説／1991年に日本で開催された世界卓球選手権大会で、韓国と北朝鮮が史上初の南北統一チーム「コリア」



主人公韓国ヒョン・ジョンファ役のハ・ジウォン
(C)2012 CJ E&M CORPORATION, ALL RIGHT RESERVED



北朝鮮リ・プニ役のペ・ドゥナと韓国ヒョン・ジョンファ役のハ・ジウォン
(C)2012 CJ E&M CORPORATION, ALL RIGHT RESERVED

を結成し出場した実話を映画化。

練習方法や価値観の違いから激しくぶつかり合いながらも、チームの勝利を目指す選手たちの熱い友情と闘いの日々を描く。ムン・ヒョンソン監督のデビュー作。韓国を代表するスター選手役に『私の愛、私のそばに』『第7鉱区』のハ・ジウォン、北の代表選手を『空気人形』のペ・ドゥナが熟演する。

当時、国際卓球連盟の会長であった荻村伊智朗の発案と尽力で実現し、南北朝鮮の融和の象徴的存在になった卓球南北統一チームの活躍を描いたスポーツドラマ。

■余話「私のイチロー」／23年前に千葉の幕張で開催されたこの大会のことは、たいへん印象に残っている。テレビ映像であるが、白地に水色で国境線の無い朝鮮半島をデザインした旗を先頭に、南北統一チームの選手が行進する光景、そして、ひとつのチームとして勝利を喜びあう選手たちの顔は、その時、南北の国境が消えていたように見えた。この2年前にドイツのベルリンの壁が壊されており、近い将来、朝鮮半島の38度線国境が無くなることを強く予見できた、希望に満ちた夢の光景だった。

しかも、その仲立ちをしたのが、卓球の世界選手権で12個の金メダルを獲るなど、絶対的なチャンピオンであり、私の幼少期の憧れでもあった荻村伊智朗様だったの

だ。何てすばらしい人、カッコイイ人だろう、と思ったりしながら、両手でテレビを押さえつけて、涙が流れていた23年前のこと思い出す。(ハインリッヒ)

年末年始に観た映画

『かぐや姫の物語』『武士の献立』『ハンナ・アーレント』『鑑定士と顔のない依頼人』。年末年始と4本映画を見ました。

『ハンナ・アーレント』は衝撃でした。アーレントを知らなかったのが、娘婿に見る前にパンフレットを買って予習するように言われました。

実際の裁判から半世紀もたっているのに「私は一端を担っただけです」というアイヒマンの姿は、自分の関係しない世界にはなんら関心を示さない「考える」という思考を忘れていた今の私たちの社会にいる普通の人の姿を思い出しました。

お正月早々、『武士の献立』で明石シネマクラブ代表の金沢さんに。『ハンナ・アーレント』では、神戸映画サークル代表の桑田さんに出会いました。今年は映画を見なさいという知らせかな。

今年もよろしくお祈りします。(山本和美)

忘年会で選んだ2013年映画10選

12月15日(日)、加古川総合文化センターのクリスマスフェスタ2013『それいけ! アンパンマン とばせ! 希望のハンカチ』上映会で450人の観覧者があった上映会に協力後、運営委員を中心とした年末恒例の忘年会を、平岡町中野の明姫幹線沿い「和平 加古川本店」で開きました。明石シネマクラブの金沢さんを加え、9名で2013年のいろんな出来事や新年の計画、最近観た映画についてなどを話し合う楽しい時間を過ごしました。

また、恒例の2013年の映画ランキングを選んで楽しみました。それぞれが譲れない作品を押し込み、多くの作品を見た人の意見を参考に、決めていきました。

邦画はたいへん豊作で、基準作として挙げた『清須会議』(監督/三谷幸喜、主演/役所広司)と『利休にたずねよ』(監督/田中光敏、主演/市川海老蔵)は圏外に消え去り、いつもはアニメを評価しない面々が意外にも強く推した『かぐや姫の物語』が、圧倒的な1位になりました。

洋画については、そんなにたくさん観ていない人も多く、多くの作品を見た人の解説を聞きながら、選んでいきました。

このランキングを”忘年会で選んだ2013年映画10選”として紹介します。DVD鑑賞やテレビ放映を観るときの参考にしてください。

【邦画の部】

1位『かぐや姫の物語』(監督/高畑勲、声/朝倉あき)、2位『東京家族』(監督/山田洋次、主演/橋爪功)、3位『少年H』(監督/降旗康男、主演/水谷豊)、4位『許さ

れざる者』(監督/李相日、主演/渡辺謙)、5位『そして父になる』(監督/是枝裕和、主演/福山雅治)、6位『旅立ちぬ』(監督/宮崎駿、声/庵野秀明)、7位『はじまりのみち』(監督/原恵一、主演/加瀬亮)、8位『舟を編む』(監督/石井裕也、主演/松田龍平)、9位『少女と夏の終わり』(監督/石山友美、主演/菅原瑞貴)、10位『旅立ちの島唄-十五の春-』(監督/吉田康弘、主演/三吉彩花)、次点『先祖になる』(監督/池谷薫、ドキュメンタリー)

【洋画の部】

1位『ある海辺の詩人-小さなヴェニスで-』(イタリア、監督/アンドレア・セグレ、主演/チャオ・タオ)、2位『天使の分け前』(イギリス、監督/ケン・ローチ、主演/ポール・ブラニガン)、3位『レ・ミゼラブル』(イギリス、監督/トム・フーパー、主演/ヒュー・ジャックマン)、4位『ハナ-奇跡の46日間-』(韓国、監督/ムン・ヒョンソン、主演/ハ・ジウオン)、5位『クロワッサンで朝食を』(フランス、監督/イルマル・ラーク、主演/ジャンヌ・モロー)、6位『アンコール!!』(イギリス、監督/ポール・アンドリュウ・ウィリアムズ、主演/テレンス・スタンプ)、7位『ジャンゴ-繋がれざる者-』(アメリカ、監督/クエンティン・タランティーノ、主演/ジェイミー・フォックス)、8位『42-世界を変えた男-』(アメリカ、監督/ブライアン・ヘルゲランド、主演/チャドウィック・ボーズマン)、9位『愛、アムール』(フランス、監督/ヒヤエル・ハネケ、主演/ジャン=ルイ・トランティニャン)、10位タイ『嘆きのピエタ』(韓国、監督/キム・ギドク、主演/チョ・ミンス)、10位タイ『ラストスタンド』(アメリカ、監督/キム・ジウン、主演/アーノルド・シュワルツェネッガー)

前回例会の報告

11月20日の例会では、沖縄本島から東へ360キロ離れた南大東島で、純朴な思春期の若者の姿を描いた『旅立ちの島唄-十五の春-』を鑑賞しました。中学卒業でひとり立ちする若者の家族と離れ離れになることへの不安や、未知の世界への好奇心を抱いて前進していく姿に、参加者からは、昔の自分と重なり共感したという感想とともに、思っていたより良い作品であったという多くの言葉をいただきました。参加会員118人。

ご意見をお待ちしています

映画の感想や意見など、このニュースへ記事をお寄せください。200-300字程度にまとめていただければ助かります。おすすめ作品をファックス、メールや例会会場のアンケート用紙でお知らせください。

加古川シネマクラブ 〒675-0101

加古川市平岡町新在家 752-46 B-313 山本方

TEL 090-9283-0435 FAX 078-935-8528

E-MAIL cinemaclub@nifty.com

http://homepage3.nifty.com/cinemaclub

会員数 170 人(11月20日現在)